

令和6年度 認定こども園 神戸鹿の子幼稚園 学校評価

1. 本園の教育理念および教育目標

【教育理念】

「和」の心を持ち、「努力」を重ね、「夢」に向かう力を羽包む

【教育目標】

健康な体をつくり、情緒ゆたかにして積極性のある行動力を育て、
心身共に健やかで社会に適応できる子どもの育成に努める。

2. 重点的に取り組む目標・計画

1. 主体的、対話的、深い学びを重点とした保育の展開
2. こどもの人権に係る活動展開推進および遂行
3. こどもの遊びが充実、安全・安心できる施設の環境整備

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

番号	取り組み	具体的な内容と成果
1	保育環境整備および種まき活動の実施	<ul style="list-style-type: none">・温暖化における適用策として、夏場でも屋外で遊べる時間と空間を確保するため大型ミスト扇風機を設置。日よけネットとミスト効果により体感温度を下げ、設置後、子どもたちの屋外で活動できる時間を確保することができた。・カンボジア出身のロス先生を招聘し国際交流活動を実施した。子ども達と園生活を過ごしなが、カンボジアの母国語であるクメール語やカンボジアの遊び、文化と食について学んだ。言葉に興味を持ち、また、子どもたちの前で行った昆虫食のクッキング実演も大きな反響があった。 子ども達は、国境や言語を越え、積極的にロス先生と関わり合う姿が見られた。・縄跳び遊びに興味を持つ子どもが多く、プロのダブルダッチチーム NEWTRAD（ニュートラッド）を招聘し、パフォーマンス鑑賞とグループワークを実施した。園庭でも真似て遊ぶ姿が見られ、失敗してもあきらめずに挑戦する子どもたちの姿が見られた。・昨年度に引き続き、想像や創造を楽しむことを目的とした活動として、劇団インプロジャパンを招聘し、即興劇の体験や表現遊びを3Fホールで実施した。活動後の自由時間では、何かになりきって遊ぶ姿が見られるようになった。表現方法も、保育者や周りの人と同じ表現をするだけでなく、自身がイメージした表現を見せる等、個性が発揮された場面をみる事ができた。・手話活動 子どもたちのコミュニケーションの幅を広げ、多様性を尊重する心を育むことを目的とした手話活動を実施した。講師の近藤辰哉先生から様々な手話を教えてもらおうと、「●●は手話でどうするの？」と意欲的にコミュニケーションを図ろうとする姿や、「耳が聞こえなくても、字で書いたら伝わるね」「体も使えるよ」等、実体験を通じて、相手のために自分は何をすることができるかを考える機会を持つことができた。

3	環境整備	今年度も子ども達の園生活の中での遊びや活動の充実を目的とした環境整備を実施した。主な整備内容としては、ドラえもん遊具リニューアル、逆上がり機の新規購入、総合遊具修繕、衝撃吸収材の拡張、スクールバスの入替、0～2歳児用の災害時避難用お散歩カーの増設である。
1	保育参加の拡充	昨年度は委員限定で実施していた保育参加を、今年度は保護者全員が参加できる保育参加として実施した。 保育参加中に「子ども達がいきいきしていたところ」、「先生がいきいきしていたところ」があれば付箋に記入してもらい、保育参加後の職員間の振り返りで活用した。 家では見られない、友達と遊ぶ様子や保育者との関わり方を知ることができた、園の取り組みや、保育者との関係がより良好になった等、といった評価を頂き、8割以上の方が次回も参加したいと回答いただいた。子どもたちと一緒に活動に参加いただくことで、子どもたちの「気づき」「学び」の場面を共有することができた。
2	生命の安全教育推進活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の体は自分のもの」という認識を持ち、性被害に合わない行動や意識を持つことができる取り組みの一環として、水遊びのシーズン前に年少児、年中児、年長児を対象に絵本「だいじ だいじ ど〜こだ?」を活用しながらプライベートゾーンをテーマとした話を導入した。 ・生命の安全教育推進活動における年長児に対するプライベートゾーン理解度調査では、水着で隠れる場所にシールを貼る割合が大幅に増加しており(44.9%→78.9%)、特に胸、下腹部、臀部に対する認識がより明確になったプライベートゾーンに関する理解度を高める効果があった。 ・「生命(いのち)の安全教育」の教材を紙芝居形式にして子供達との話し合いの機会を設け、自分も相手も大切な存在であることを学んだ。 話し合いの中で、『いやだ』と大声で言う」「逃げる」「大人の人に知らせる」といった適切な対処方法が子ども達から示されたことは、単に認識を深めるだけでなく、自己防衛の具体的な手段を学ぶ効果もあった。 ・話し合いの場では、子供達と園生活を振り返りながら、自分自身を大切にすることや、「相手の気持ちも大切にすること」を学んだ。
2	園内研修	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質向上を目的とした「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用した振り返りを本年度も実施した。子どもへの関わりや言葉がけを職員間で振り返ることで、より人権を尊重した対応や意識強化を図った。 ・こども同士のトラブルの際、保育者が一方的に解決するのではなく、こども自身が話し合いや気持ちの整理をする機会を大切にすることで、お互いの気持ちを理解し、尊重し合う関係が育まれることに繋がった。 ・NPO法人 HIKIDASHI 代表大石真那先生を講師として、「生命の安全教育」および「包括的性教育」をテーマとした園内研修を実施し、国際セクシャリティガイダンスに基づく、性を「権利」として捉える意識の向上を図った。

4. 学校評価の具体的な計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
概ね達成されている	前述の「3. 評価項目の達成及び取り組み状況」に記載

5.今後の取り組むべき課題

課 題	内 容
・こども主体の保育と共主体の展開 ・地域に開かれた子育て支援事業としての機能拡張	・ステークホルダーとの共感・共創、園生活を通じた子どもたちの心の育ちの部分を保護者の方と共有・共感できるスキームを探究する。 ・地域の子育て支援拠点としての拡充することにより、子育てをする家庭を支え、地域全体でこどもの健やかな成長を支援する

6. 財務状況

監査法人による財務監査により、適正に運営されていると認められている。

7. 情報公開

本学園ホームページに保育活動や基本的な情報を積極的に公開している。

アドレス… <http://kobe-kanoko/net>

8. 学校関係者の評価

- ・夏休みだけでなく、冬休み長期休みの預かり保育の給食発注ができればありがたい。
- ・物価高騰や、年間プログラムの変更によって例年園児に提供していたものがなくなる場合は、事前の説明があった方がよい。
- ・各項目の評価は高いので、地域に対して広く情報発信していけば、より地域に開かれた施設となっていくと思われる

学校評価確認者

 亀山 秀郎